（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0172300154		
法人名	有限会社　老古美興産		
事業所名	グループホーム「そよかぜ」岩内		
所在地	岩内郡岩内町字栄2番地10		
自己評価作成日	平成25年9月6日	評価結果市町村受理日	平成26年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172300154-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・家庭的な雰囲気
・職員の離職率が低い
・商店街にある事業所

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9　ナルク江別内
訪問調査日	平成25年12月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は木造2階建ての2階にある1ユニットのグループホームで、岩内町の中心商店街、銀座通りに位置し、近くには岩内港、木田金次郎美術館、文化センターがあり環境に恵まれている。ホール（居間・食堂）の広い窓からは明るい日差しが入り、商店街の並木、往来する人、岩内港を眺めて、季節の移り変わりを感じ楽しむことが出来る。利用者は敬老会などの地域行事に参加し、毎月ボランティア団体が来訪して、民謡・踊りなどを披露してもらい交流している。また、幼稚園児から折り紙、遊戯、肩たたきなどのプレゼントを受け交流している。認知症家族の会研修会への職員協力、利用者、会員との交流を行って地域に貢献している。ホールは家庭的な雰囲気で、職員は明るく、利用者と家族のように接し、利用者は、テレビ体操、編み物をするなどして、それぞれの居場所で、思い思いのことをして過ごしている。「そよかぜ便り」と共に利用者一人ひとりの様子を家族に知らせ、家族との関係を密にして家族の安心に繋がっている。開所から勤務する職員も多くて定着率が高く、職員自らの評価は、管理者を中心にさまざまな角度から、謙虚に公平に話し合い厳しく行っている。職員は、理念「認知症になっても、住み慣れた町で老後も普通に暮らしたい。」をケアに反映させるよう日々努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの職員会議で議題にあげ、職員は理念を意識しながら日々のケアにあたっている。ホーム内、各所に理念を掲示している。	理念を玄関、食堂ホールなどに掲示し、年度当初職員会議で話し合い、職員で共有して日々のてケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や地域行事への参加、見学を行っている。昨年から町内のボランティア団体、幼稚園園児の慰問を受けている。	散歩時に地域住民と気軽に挨拶し、敬老会などの町内会行事に参加して交流をしている。毎年近くの幼稚園児から手作りの折り紙、遊戯や童謡のプレゼントを受け、利用者から、おやつをプレゼントして交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族の会の研修会や交流会への参加、協力を行っている。交流会では、毎年、入居者さん、スタッフ共々、会員の方達と楽しい時間を共有出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1度開催している。これまで、災害対策や避難訓練に対してのアドバイスを多数いただいており、訓練に役立てている。	年6回、町職員、住民代表、家族代表等が出席して、利用者の状況、事業計画、行事報告等を行い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。防災訓練等でも協力関係を構築している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方より、情報提供や、資料などでアドバイスや指導をいただいており、こちらからの相談にものっていただけている。	福祉関連法律の改正、感染症対策、研修会、利用者に関する手続きなどで照会や指導を受け、情報交換を行い、さまざまな事案で連携できるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の防犯目的以外施錠はしていない。やむを得ない場合はご家族に説明し、了解を得ている。	各種の研修で全職員が身体拘束の弊害を理解している。緊急やむお得ない場合は「身体拘束廃止委員会」で検討し、家族等に説明し同意書を作成して行うこととしている。。時々の状況により車椅子のまま食事を摂るとき、安全ベルトを使用することがある。商店街に近いという状況から防犯のため、19時から6時ころまで施錠している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	5月に6名虐待についての外部研修へ参加した。その後　事業所内で勉強会を行った。日々、気にかけながらケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はまだ、成年後見制度の研修会には参加をしていないが機会があれば参加し、今後に備えたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず家族、保証人の方に来所していただき内容の説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会、運営推進会議で意見、要望を聞く機会を作っている。認知症家族会の研修や集会への参加も促している。	毎日の会話から意向の把握に努め、家族等の意見、要望は、面会時や家族交流会など行事に来訪する機会を捉えて、積極的に会話を交わし、情報を提供し意見を聞くように努めている。家族に「そよ風だより」で個別に様子を知らせている。家族の要望で家族交流会を年2回から3回に増やした。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	シフトの見直しや設備に関する要望、必要物品の購入などの意見を聞き、出来るだけ叶えられるよう努力している。	職員会議や日常の会話の中から意見や提案を聞いて運営に反映させるよう努めている。シフト見直し、物品購入などの提案がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開所時から雇用形態に変化はないが意欲のある職員が多く働きやすい職場環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内が来た時には、出来る限り参加をして内部研修に役立てている。職員個々に合った研修への参加も促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との相互訪問の機会はここ数年行っていないが、機会があれば積極的に実現していきたい。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談には必ず行き、入居日に不安なく入居できるように努めている。家族からも入居前に本人の状態、要望等がないかを聞く機会を設けている。見学に来所された時にはスタッフも声掛け等でコミュニケーションを図り、馴染みやすいような雰囲気作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話しから、極力、精神薬に頼らない生活を希望されていることが伺えたので、必要以上の薬は使用しないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	夜間眠られなかった方には、職員との信頼関係を作れるよう、コミュニケーションを多く持ち、夜間も安心できるような環境作りに努めた。今では、夜間良く眠れるようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんから、昔の知恵や、知識を教わる機会が日常的にあり、掃除なども自然に入居者とスタッフで行えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に不穏状態にある場合には事前ご家族に状態を報告し、統一した声掛けや対応をするように申し合わせたこともあった。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後、疎遠になっていた美容師さんと会う機会も多くなった入居者さんがおり、今では、お店へ行きカット、毛染めをすることが楽しみとなっている。	一人ひとりの生活歴を知るように努め、地域で行われるお祭、盆踊りに参加し、馴染みの関係が継続できるよう支援している。認知症を支える家族会への参加、買物、理・美容など、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特別スタッフが介入しなくても、自然に入居者さん同士それなりの関係が出来ている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院を理由に退所された方に、ご家族が遠方という理由もあったが、出来るだけ面会へ行き、身の回りの世話や洗濯物の回収、全スタッフで最期のお見送りも行った事例もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントシートに情報を収集している。本人の好き嫌いに合わせ、他者とメニューを替えての食事提供も行っている。就寝時間等も本人に任せている。	日常のコミニュケーション、家族の情報から思いや意向の把握に努め、把握した希望、意向を日誌、日々のミーティングで共有し、希望や意向に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、関係者に入居前に書式を渡し、必須事項等を記入していただいている。入所後にも新たな情報があれば随時記録に追加し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常生活の状況や、病状を記録に残し、ケアプランに反映させている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調、状態の変化に合わせてケアプランも都度、見直しを行い、本人、ご家族の意見も聞き入れながら作成している。	利用者と家族の意向を反映させて、担当職員が中心となり介護計画を作成している。全職員参加のケア会議で意見交換して3ヶ月毎に介護計画を作成している。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他、毎日の申し送り、連絡ノートを使い情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時の荷物の搬入、搬送等の支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症を支える家族の会　ゆずりはの会との定期的な交流会を通じ、今年は会員の方の自宅へ伺い、レクレーションや普段は出来ない野菜の収穫体験をさせていただいた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、町外の病院受診の同行は行っていなかったが、現在は受診継続の為、行っている。	利用者、家族の意向に添ってかかりつけ医に受診している。家族の希望により看護婦資格ある職員が付き添い支援をしている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院受診は基本、看護職員に同行してもらい、入居者さんの体調等に変化があれば随時、相談して対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	町内の病院であれば出来るだけ毎日面会に行っている。その際、看護師さんに情報を聞いたり、ソーシャルワーカーさんとの情報交換も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医から重度化や終末期の話しがあった場合には、ご家族と今後の方向性について話し合いを行い、看取りに関する要綱、、当ホームで出来る看取りについて説明をし、同意をいただいている。	契約時に「看取りに関する要綱」に基づき、重度化した場合や終末期のあり方について説明している。重度化した場合利用者、家族の意向を聞きながら医師と連携し、希望に添えるよう支援している。看護師が必要により常勤することにしている。現在まで2人の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1度消防の普通救命講習を受講している。今年も受講する予定である。避難訓練時にも、搬送方法などを消防職員の方に指導していただいている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っているが地震や水害の訓練までは行えていない。避難訓練には地域の方に協力していただいている。	年2回（夜間想定1回）、消防計画に基づき避難訓練を実施している。緊急連絡網が整備され、地域住民3名の支援が確保されている。避難場所の指定、火災通報装置、スプリンクラーが整備されている。地震、津波、原発事故の避難訓練については、現在検討している。	日本海、泊原発に近い位置にあり、自然災害（津波、原発事故など）を想定したマニュアルを作成し、職員で共有して、避難訓練を実施することを望む。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人に合わせた声掛けを行っている。基本は「～さん」と呼びかけをしている。昔からの呼ばれ方で「～ちゃん」と呼ぶ方もいる。	本人の気持ちを大切にし、トイレに誘導するときは、他の人に気づかれないように、さりげなく言葉かけするなど、利用者のプライバシーや尊厳を損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定は本人にしていただくのが基本で、充分な説明を行うよう努めている。自己決定が困難な方には、表情や、態度から読み取るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の思い通りに過ごしたい方には決め事は作らず、強制するようなことも一切せずに自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みに合わせて洋服はきてもらっている。自分で選べない方には、その方が好みそうなものをスタッフが選んでいる。ご家族の希望も聞いている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に食事作りはしていただいてないが、先日、レクとして、おにぎり作りを行った。その他、何か食べたい物がないか聞き、メニューに取り入れるようにしている。	利用者が食事を楽しむことが出来るよう希望を聴き、慣れ親しんだ地元の海の食材、おはぎなど季節のメニューも取り入れて献立し、外食にも出かけて楽しい食事になるよう工夫している。利用者は、配膳・下膳、テーブル拭きなどを行い、職員と一緒に会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は、掃除後や、外出後など活動後には出来るだけ飲んでいただき、食事は個人に合わせた盛り付け、量の調整をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方以外は、その方の習慣に合わせた声掛け、誘導、一部介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿時間を記録する事で、排尿の間隔、パターンを把握し、必要時には、声掛け、誘導、汚染の有無の確認を行っている。	排泄パターンを記録して、表情や態度に気をつけながら、出来るだけトイレでの排泄が出来るようさりげなく誘導している。個人により見守りを重視する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳、ヤクルトを飲んでいただき、食後のデザートには、ヨーグルトも食べていただいており、食事には、野菜を多く使用している。毎日、テレビ体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、週6日。入居者さんからの急な要望にも可能な限り対応している。入浴を強く拒まれる方がおり、入浴するタイミングまで待ち、入浴していただいている。	入浴は健康管理からも大切であることから、回数も時間も制限していない。入浴剤も使用して入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏場は、室温の確認、管理をこまめに行い、暑くても窓を閉め切ってしまう方が多数で、必要時には窓を開ける支援や、保冷剤の使用を促した。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋ファイルを作り、いつでも確認できるようにしている。不明な点があるときには、薬剤師や看護師に随時確認している。薬や服薬方法に変更があったときには、記録、申し送りで情報を伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からカラオケを趣味にされた方がおり、ホーム内でもカラオケのレクを行っている。散歩、買い物、フラワーアレンジメントと昔からの趣味を継続出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ゆずりはの会との交流会参加や町内の催し物に多数参加している。ある入居者さんから、「生まれ故郷に行きたいな」と希望があり、ドライブを兼ねて行ったこともある。	事業所は商店街にあるため、散歩を兼ねて、近くのスパーや道の駅に買い物に出掛けたり、元気の良い利用者は、近くにある病院まで歩いて通院している。季節が感じられる花見、紅葉見学に出かけ、外食も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、すべて行っていただいている。出来ない方にも少ない金額の管理や、病院受診の帰りに売店で買い物をする機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で、電話機の操作が出来ない方には、職員が代わりに行い、電話の取次ぎの支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事に合わせてホーム内を装飾している。臭いの気になるところ、各居室には、芳香剤をさりげなく使用している。特に、汚物用のゴミ箱には気をつけている。	居間や食堂は一体的な作りで、広い窓から明るい日差しが入り、利用者の刺しゅう作品、行事の写真、季節に合わせたリース、クリスマスツリーが飾ってある。食卓テーブルも2～3人用で、仲の良い利用者同士おしゃべりをしながら寛げる家庭的な雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、テーブル、椅子を多数設置している。仲の良い入居者さん同士で、その時々場所を変えて過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や、仏壇、思い出のある絵などを居室へ持ち込み、その方らしい空間を作ってもらっている。	利用者個々人の好みや必要により家具や仏壇、冷蔵庫などが持ち込まれ、壁には自分で作った刺繍の飾り、好みの絵などが飾られ、居心地よく落ち着けるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に看板の設置している。幻視がありガラスが反射することで混乱してしまう方がいるので、ガラスにカーテンを設置した。		